泉北てくてく

梅・美木多コース

楠木正成を支えた武家・和田氏ゆかりの美木多へ！
-牛石古墳から火の玉伝説の放光寺まで-

楠木正成を支えたのが河内の和田（わだ）一族と和泉の和田（にきた・にきた）一族。美木多は、和泉和田氏ゆかりの土地です。中世には和田助家、和田助康、和田助氏の三代が楠木正成に使える武将として活躍しました。分家には岸和田荘（現・岸和田市）を開拓した岸和田治氏などもいます。名門武家・和田一族のゆかりの地を歩きます。

1 梅・美木多駅

昭和48年（1973）開業。当初は「梅駅」の予定でしたが、駅は美木多地区檜尾なので住民から「美木多駅」の要望が出て現在の駅名となりました。

2 みなみかぜ交流プラザ（南区役所1階）

2021年3月からは里山キッチンがオープンし、ランチ、お弁当、ドリンクなども提供されています。

3 ももポート

UR都市機構と堺市が連携して、泉北ニュータウン活性化を目的に、桃山台一丁団地に作られたコミュニティ・スペースです。南海フードシステムが運営し、様々な催しが行われています。

4 牛石古墳

6世紀後半に作られ、須恵器生産に携わった氏族の円墳と推測されていますが、未調査なので詳細不明です。石室は自然石で、その形から牛石の名がついたといわれています。

5 梅文化会館

南区域の文化活動及び文化振興の拠点として昭和59年（1984）に開館しました。昭和を代表する建築家・村野藤吾の最晩年の作品です。

6 和田川

美木多地域、和田谷（みきただに、にぎただに）五ヶ村（別所、上、檜尾、大森、野々村）は、この川を中心に家が作られ、人々の生活が成り立っていました。昔は綺麗な河川で、木綿を晒していたほどだったといいます。下流で石津川に合流して大阪湾に注ぎます。

7 総福寺・大師堂・行者堂

真言宗寺院です。寺伝では大宝年間（701～704）に越前の泰澄国師（682～767。白山を開山した修験僧）の開基といいます。天正5年（1577）、信長の紀州攻めで焼失し、江戸時代に再建されました。寛永2年（1625）銘の仏像があり、天保14年（1843）の『和泉国神社寺院資料』には敷地3196坪とあります。大師堂は元は原山台にありました。渇水で困っていると弘法大師が訪れ、命じられた場所を掘ると湧水が出たので「水呑み大師」ともいいます。ニュータウン開発で昭和42年（1968）に当地に遷されました。行者堂は元は吉野の竹林院にありましたが南北朝の争いで荒廃し、和田六十郎（妻は楠木一族の出身）が旦那寺の総福寺に遷したといいます。中の行者像は正徳年間（1711～1716）に金剛山行者坊より勧請したものです。

8 檜尾だんじり小屋

大正10年（1921）に岸和田市宮本町のだんじりとして新調され、平成20年（2008）、檜尾が購入しました。美福連合（中山、大森、檜尾、上北、野々井、大庭寺、北高尾）の祭礼で曳行されます。

9 檜尾大橋

泉北１号線と泉北高速鉄道の建設で檜尾村が南北に分断され、南側の美木多墓地に行くのに困ると架橋されました。夏のPL花火のさいは大勢の人が集まります。

10 地蔵堂・おもかる石・美木多墓地

墓地北側に地蔵堂があり、堂の脇に「おもかる石」があります。日本全国各地にありますが、石を持ち上げ、その重さの感じ方で、願掛けの成就を計る「試し石」です。美木多墓地には美木多上、檜尾、大森、中山地区の戦没者の慰霊碑などもあります。

11 美多彌（みたみ）神社

『延喜式神名帳』（延長5年・927年）に記載されています。ご祭神は天児屋根命で、その後裔を称する大中臣氏の和太連（にきたのむらじ）、または民直（たみのあたい）の創建という伝承があります。南北朝時代には3万坪の広さを誇りましたが、信長の紀州攻めで焼失。その後、文禄元年（1592）に楠木一族の和田道讃が再建しました。平成26年（2014）には720年ぶりに流鏑馬まつりを復活しました。これは永仁２年（1294）に発行された和田一族の財産目録『沙弥性蓮処分状』に「武射免弐段」（武射訓練のための免田が二段あり）の記述があり、和田一族が当地で武射（流鏑馬）訓練をしていたことに因みます。また小谷城にあった川柳記念碑が移築されています。

12 放光寺

かつては律宗寺院で楠木一族が信仰したので寺紋は菊水です。信長の紀州攻めで焼失しましたが、承応4年（1652）に神鳳寺（大鳥大社の別当寺）の快円和尚の弟子・智玄坊が再興しました。赤ん坊の夜泣きにご利益がある「夜泣き地蔵」が有名です。「戦前は夕方になると、よく火の玉が出て大森（門下地蔵・現在の桃山台近隣センター）まで飛んで行った」という不思議な伝承もあります。火の玉の大きさは夏蜜柑ほどで大人も子供も見に行ったとか。ある時、鉄砲名人が撃ち落とそうとしたら眼前でいきなりパッと消え、振り返ると、またパッと現れ、恐怖で撃てなかったといいます。火の玉の正体は「牛石古墳の死霊」「女狐に会いに行く男狐の舌が光る」「土蜘蛛の仕業」と諸説ありますが、戦時中に見えなくなったそうです。

13 和田邸跡

大庄屋・和田家の屋敷跡です。和田家は南北朝時代に活躍した和田賢秀（生年不詳～1348年没。楠木正成の甥である楠木正氏か楠木正季の子）の子孫といわれています。主屋は18世紀の建築で、地域のシンボルでしたが、老朽化で惜しくも2014年に解体されました。跡地横に和田治兵衛翁記念碑があります。

｜発行｜特定非営利活動法人SEIN｜プロデュース｜陸奥 賢（観光家・大阪まち歩き大学学長）
｜コーディネート｜宝楽 陸寛（コミュニティLAB所長）｜イラスト・デザイン｜田中 保帆